

平成19年度新宿区外部評価委員会 第1部会
第1回 会議要旨

<出席者>

外部評価委員（5名）

卯月部会長（会長）、大塚委員、須貝委員、芳賀委員、渡辺委員

事務局（1名）

関原企画政策課主査

<場所>

区役所第一分庁舎7階 職員研修室

<開会>

【部会長】

では、第1部会を始めましょう。皆さんに関心のあるテーマをお聞きしたいと思います。

【委員】

自分としては、今までかかわってきたかなり内容のわかっているところについて、調査してみました。それは本編の129ページ、別冊では263、265ページで、資源回収についてです。

【委員】

部会のテーマを3ついただいたので、一通り勉強してみたんですね。私どもの分野にどんなことがあるのかという点、それからどのくらいのお金を使ってやっているかという形で、自分なりに資料を整理してみました。

結論として、今年のこの部会でのやり方について、ちょっと申し上げたいんですが、それは私どもは今回、こうやってなったばかりですから、それから専門的知識も違うし、そういう意味では、深く分析するというのは容易なことではないけれども、広く浅く、つまり前回そんなにやれるはずがないから、1部会、1つか2つというような議論がありましたけれども、いずれにしても来年度の予算に何らかの形で反映しようということから、こうやっているわけですが、浅くてもいいからなるべく広く目を通したほうがいいという、そういうスタンスでこれに臨んだらどうかというふうに思います。

それで、私はこの外部評価の場合、全部すべて金というわけではございませんけれども、やっぱり税金がどういうふうに使われているかという意味でいうと、金額の多いものほど影響額もという意味でも、私が興味を持っているのは重点項目の中では11番、34ページの「災害に強いまちづくり」ですね。そして、そういう視点で施策を見まして、施策の20番、97ページの「適切な都市構造の実現」、21番、99ページの「地域の特性をいかした参加のまちづくり」、施策の22番、101ページの「防災都市づくり」の3点を持

ちました。

【委員】

先の委員会のときにこういう候補ではどうでしょうかということで3つ挙げておりましたね。そのうちの区政の課題を考えますと、重点15番、42ページの「水辺とみどり豊かなまちづくり」や、施策23番、103ページの「地域ぐるみの防災体制づくり」がいいのかなという印象を持ちました。あと、重点は施策も関連してまいりますよね。施策では、26番、109ページの「みどりと水の豊かなまちづくり」に関連すると思います。

あとは、ごみ問題といったところも今は重要なのかなというところ、それから当然災害対策もこれは重要なんだろうなという気がいたしました。

それともう1つ新宿区政の特徴と言ったら、やはり歌舞伎町対策なのかなという気もいたしまして、そうなりますと重点項目12、36ページの「安全・安心のまちづくり」とが重要になってくるのかなと思ひまして、その辺のところに取り組んではいかがなものかなと思ひました。

【委員】

私も、重点項目の11番、12番に関心がありまして、先ほど他の委員がおっしゃったところと重複いたします。

というのは、私は一貫して防災関係の担当をやっておりまして、今も防災サポーターの連絡会の会長をやっているものですから、どうしてもこれは外すわけにはいかないので、勉強にしたいと思っております。

それに加えまして、やっぱり「安全・安心のまちづくり」と、どうしてもまちづくりにかかわってくるような形になっちゃうんですね。それで、発災後の町の復興についても、去年の暮れからいろいろ勉強会がありまして、そこにも参加してまいりまして、現在も地区会議の中でもその問題を取り上げて、早稲田大学の先生方にいろいろ話を聞いたりお願いしたりすることがあるものですから、そんな方向で今、勉強をしている最中ですので、どうしてもそこにちょっと重心を置きたいと、こう思っております。

【委員】

さっき私、ごみ問題と言いましたけれど、そのほかに新宿区が今考えなければならない重要なものとして、ヒートアイランド対策というのがあるんですが、この項目の中にはないんですね。ばらばらに、例えば緑化とか、それから道路の舗装とかいう形であるんですが、もう少しそこに力を入れなければいけないと思うんですが、それにはどうしたらいいか、どういう評価の仕方をしたらよいでしょうか。

【部会長】

例えばそういう新しい施策がまたがっていたりするので、例えば水とみどりの豊かなところで評価するときに、全くCO₂対策とかヒートアイランド入っていないじゃないかというふうにして評価して、そういうのを入れるべきだと、一番お考えに近いところでやればいいですね。

【委員】

環境土木部でもばらばらにやっているんですね。土木課ではここをやって、道とみどりの課では、みどりの保護とかいろんなことを扱っているんですけども、もう少し力を入れないと、新宿区というのは23区の中でヒートアイランド現象が一番著しいところなんですね。それで、3年前に新宿区は、23区の最高気温を記録したというようなこともありまして、渋谷区のほうは、区内の平均気温を1度下げるということで重点的に取り組むという話が出ていましたが、新宿区もそれぐらいの覚悟で、もっともっとそういう項目を新たにつくるぐらいの必要があるんじゃないかなというふうに思っています。

【部会長】

わかりました。どこか選んだところで評価するというので、もしそれが今、選ばれていなかったら、またご指摘をしていただいたらいいと思います。

今ご指摘のあったのを比較してみたいと思いますが、11番の「災害に強いまちづくり」、これがお二人からのご指摘。

【委員】

私も、もちろん。

【部会長】

失礼しました。では、3人からご指摘がありました。

この次の12番「安全・安心のまちづくり」もお二人だったと、よろしいですか。

それから、15番「水辺とみどり豊かなまちづくり」、これは1人からご指摘があって、今のヒートアイランドもひょっとしたらこれも入る可能性があると思います。

それから施策のほうですが、20番「適切な都市構造の実現」、これは1人からご指摘されたと思います。

それから、21番「地域の特性を生かした参加のまちづくり」、1人からご指摘いただきました。

その次は、22番「防災都市づくり」、これは、重点との関連からすると、2人からのご指摘になりますね。

それから、26番「みどりと水の豊かなまちづくり」、これは1人のご指摘で、さっきのヒートアイランドも含むから2人になるかな。

それから、36番「資源循環型社会の形成」を1人からご指摘された。

これでよろしいですか、これだけ挙がったと思いますが。

【委員】

質問、確認ですが、防災、災害に強いまちづくりの関係で103ページ、施策の23番「地域ぐるみの防災対策体制づくり」が関連してくるのではないかと思います。

【部会長】

なるほど、22と23は関連ありますね。

そうすると、重点項目と施策で、事業レベルでいけば重なりますよね。そういうときに

はどうやって選びましょうか。

【事務局】

そうですね。144事業は全部が施策という43のグループに入っています。重点項目というのは、144事業全部がなっているわけではなくて、大きな課題を決めて、それぞれの課題に対して重点的に取り組むということで、ばらばらの施策から持ってきているものもあれば、施策とあまり変化のないというか、同じようなところの事業があるというものもありますので、例えばぶら下がっている事業を見ながら、同じようなものがあるれば施策か重点のどちらか1つにするという考え方もありますし、いろいろやりようはあるかと思えます。

【委員】

水辺とみどりの豊かなまちづくりでは、施策と重点、それぞれ1つずつ挙がっているんですけども、中身を見ますと施策のほうが広いんですね。重点項目はそのうちの一部という感じなんですよ。

【部会長】

なるほど、広いほうがいいですね。そうすると、先ほどの提案のように、限定的にしないほうがいいですかね。

あと、重点には資源循環の話がないので、もしこれをやるならば、施策のほうできちっと扱わなければいけませんね。

ほかにご意見はありますか。

今のご意見ですと、みどり、水関係は施策の26番のほうが広いからこれをやったほうがいいんじゃないかというようなご意見だったように思いますし、資源循環は、施策にしか入っていないからこれは立てたほうがいいんじゃないかというふうに聞いていて思いますが、では、防災とか安全安心の問題を、どう扱うかということですね。

【委員】

耐震化がどこまでいっているかということになると、あまりいっていないというのが事実ですから、やっぱりそこら辺をどうするかということを重点的にチェックしなきゃいけないんじゃないかと思うんですね。まず壊れないということが、もう前提になりますから。

【部会長】

それはそうですね。そうすると、重点の「災害に強いまちづくり」というほうが、ちょっと広目なのかな。施策だと幾つかに分かれている。

【委員】

施策ですと、23番「地域ぐるみの防災体制づくり」と22番「防災都市づくり」ですが、これにかかってくるんですね。だから、これはちょっと逆みたいな感じがあるようですね。

【委員】

重点の「災害に強いまちづくり」というのは、施策23番「地域ぐるみの防災体制づく

り」と事業は同じで、施策23番のほうが幅広く事業を抱えていますね。事務事業91番の「避難所等の震災対策」と、93番の「避難所機能の充実」という2つを、特に重点項目のほうに特記しているにすぎないということです。

【会長】

なるほど。どっちで取り扱っても、実際の事業を見るのは同じなので、落ちがないほうがいいということで、むしろ重点項目の「災害に強いまちづくり」を扱うということではないですか。

【委員】

まあ、両方とも出しても同じなんですけど、地域ぐるみの防災体制づくりというのは、本当にそれに参加しているかどうか私もわかりませんが、もっとやっぱり自主的にこうなったらどうするか、このときはどうするかという、いわゆる基幹を持った防災訓練までしてほしいと思うんですけどもね。どうもあまり防災訓練も参加しないで傍観している、あるいは来ても、何か人のやっているのを見ているというような人があまりにも多過ぎるものですから、そういうことじゃないよ、やっぱり体験しておかなきゃいけないよという感覚なんですよ、はっきり言って。例えば消火器ですら操作できない人がいっぱいいるわけですから。

【部会長】

そういうのもあるかなと、今聞いていて思います。災害に強いまちづくりって、当然重点項目だから大きなくくりになっていますよね。それで、区がやることとか、区民がやることとか、あるいは都とか国にお願いしなきゃいけないこと、そういうことがきっとたくさん並んでいる。それはそれで重要なんだけど、でも一方で、今ご指摘のように、地域ぐるみの防災体制というのが、防災まちづくりの中でかなり重点なのに余り進んでいないんじゃないかということであれば、もう徹底的にここをやる。そういう、ここではバアッと広げるんじゃなくて、逆にそこだけギュッと徹底的に議論するという方法もありますよね。

【委員】

ありますね。やっぱり支え合いというのは、どうしてもコミュニケーションでございまずので。防災建物の問題じゃなくて、いろいろな会合のときに、いろいろなイベントに、やっぱり大勢の人間が参加して顔が見えるような町でなければ、本当は支え合いにはならないんですよ。いわゆる奪い合いになっちゃうんですよ。

【部会長】

例えば地域ぐるみの防災体制って非常にソフトな活動、コミュニティな活動とは思いますが、「多目的環境防災広場の確保」がDと評価があって、実際にやれやれと言ったって、空間的にはないじゃないかという視点でやるということもあるかもしれないね。重点項目の「災害に強いまちづくり」は事務事業評価がA、B、Bで、何かみんないいことばかり書いてあるから、むしろDと評価しているのが入っていたほうが、ヒアリングなどを

するときに、何でできないのという問題が出てくるかもしれない。

では、今の災害とか防災系は、とりあえず重点項目のほうではなくて、施策のほうの地域ぐるみの防災体制づくりというので、いいですか。

【委員】

そのほうがいいですね。

【部会長】

これでもう3つですね。

ただ、先ほどご指摘された安全・安心とか歌舞伎町とかというのは、今はまだ入っていないんですね。どうしましょう、今の3つでいくか、いや、4つやろうということになるのか。

【委員】

あとは、「防災都市づくり」も指摘があったと思いますが、地域ぐるみというと、そちらも入ってくるんですか。計画事業を見ますと、そちらのほうは何か入ってこないような感じがいたしますけど。ハード関係になって、ハードの性格が強くなるような。

【部会長】

ちょっと違うでしょうね。

【委員】

施策の21、22、23、24、25と、この辺ずらっと建設絡みのものなんですが、1つは都道72号線道路の用地買収というようなこと、新しく道路をつくる工事、結構買収費が多額になって、工事そのものは実際に動いてなくて土地を買収するだけという、そういう部分。それと再開発事業、いろんなところの地区計画だとかそういうものの支援の関係で、億のお金をいっぱい使っているんですけど、何にどういうお金を使っているんですかというのがよくわからなくて、そういう関係のものがいろいろあるわけですね。

それと、災害に強いまちづくりというような、避難所等の震災対策ということで、学校だとかそういったところの震災対策ということで、12億円ばかりお金使っている部分があるんですね。これはこれでもう必須のことですからやらなきゃならないとしましょう。

それから、「人にやさしい道路、交通施設の整備」ということで、これは細街路の拡幅だったりということで、生活にかなり密着していて、もっとやれと言いたいところではあるんですけど、これも検討したい項目の1つに、追加でちょっと述べさせていただきたいと思うんです。

会長に伺いたいのは、これらを3つとか何とかに絞るべきなのか、それとも結構関連している部分はあるから、5つでも6つでもいいじゃないというふうに、僕はむしろ提言したいんですけどね。

【部会長】

ヒアリングをするときには非常に総合的になるんでしょうけれども、最終的にどうでしょうね。例えばさっきの「防災都市づくり」ですけど、こういうところにも、歌舞伎町

対策とか安全・安心なんて話も入っていたり、道路の安全対策ということも入っているわけですね。こういう切り口でやって、人にやさしい道づくりというのはほかに入っているんだけど、むしろこっちの視点で道づくりをやらなきゃいけないんじゃないかというふうに指摘することも可能だと思うんですよ。

だから、大きな項目をたくさん扱うより、例えばこの「防災都市づくり」を「地域ぐるみの防災体制づくり」とセットでやることによって、他の事業をむしろこっちでちゃんと見直すということでヒアリングをすることは、何ら問題がないと思うのですが。

【委員】

関連ですからね。

【部会長】

ええ。最初から項目をどんどん増やしていくよりは、最終的に提案するときにインパクトがある、関連をもっと深めろという、防災は縦割りになっているぞというような指摘をすればいいので、項目をやっぱり5つ、6つも増やすより、実質的な中身のほうで関連するから、こっちの事業もヒアリングするというのをやったほうがいいというのは1つありますかね。

【委員】

あまり多く選んでも、ちょっと感じがまとまらなくなりますね。

【部会長】

ええ、狭めるつもりはないんですけど、防災はもうそもそも大きな話、資源もきっとかなりほかのテーマに比べると結構範囲が広いんじゃないかという印象がありますね。

【委員】

ヒアリングの時間もありますからね。

【部会長】

そうなんです、2時間。今回やっぱり11月までに報告を出すということですから、もしよろしければちょっと提案ですが、さっき3つと申し上げたのが23と26と36、ですが、ご指摘もあったので、「防災都市づくり」というちょっとハードのほうのことも23とセットで、22と23をセットで1つ取り上げて、人にやさしい道づくりみたいなこともヒアリングの対象にするというのはいかがでしょう。

僕のイメージだと、例えば防災って幅広いから、いろんな担当の課長さんをバアッと並べて、こっちがだめと言ったら、こちらからどんどんその矛盾点を突いていくというか、1人の課長さんじゃなくて、何人かの課長さんを一緒にバアッとやったほうが、お互いに聞いていただくということも重要なので、その22、23は一緒にできるんじゃないかと思うんですがね。

ほかには、26というテーマと36というテーマが出ていますが、これでも多いと思うけれど、でも4人のご関心を聞くと、例えば26、36も落としたいという気がするんですが、いかがでしょう。

【委員】

26は非常にテーマが広くて、防災もこれについてはどの担当、この担当というふうにしてするわけですが、ヒアリングのときに、例えばヒートアイランドと、それからそれを含めて全部の担当者と呼んだら頭の中がこんがらがっちゃうと思うんです。

ですから、防災だったら2回ぐらいに分けるか、あるいは防災だけを集中してやるかというふうにしないと、聞くほうもまとめるのも大変だと思うんですけど、そのヒアリングというのは1日で全部済ますということなんですか。

【部会長】

そう聞かれると、僕もなかなか何とも言いがたい。増やせるの？

【事務局】

皆様のご都合で。

【部会長】

いや、ここで増やそうと言えはいいの。ほかには影響を与えないの。

【事務局】

ほかにもちょっと影響を与えるかもしれませんが。

【委員】

防災関係1つ取り上げてみましても、2時間じゃ済まないと思うんですよ。関係するものがたくさんあると思うんですよ。本当に広く浅くしかできませんよね。

【部会長】

小気味よくやらなきゃいけないと思うんですよ。1つ聞いてだらだらとしゃべり始められたら、もうちょっと待ってくださいと。もっと聞きたいのは、なぜできないかなんですよとか言って、ばんばんばんとやらないとね。

【委員】

はっきり言えば、防災なら、いわゆる防災、発災したときはどうするか、その後はどうするかというので、3段階に分かれるんです。だから、その3段階に分かれる一番最後のまちづくり、今、復興まちづくりはどうするかというのは、前もって本当は準備していないと、そこに行き着かないということもあるわけです。ですから、非常に難しいんですよ。だから、そこら辺をどう切り口にして、どこを攻めていくかということが問題なんです。

発災するまでの間、皆さんのコミュニケーション、それから資機材のあり方、持っているもの、そういうものを切り口にして、あるいは公園に今、防災資材倉庫をつくっちゃいけないと言っているわけですよ。それは一体どういうことなのかとか。

【部会長】

いけないんですか。

【委員】

ええ、端のほうに1つ置くだけ、つくらせてもらえばいいんだけど、それも認めても

らえないところがあるわけです。だんだん認めるようになってきましたけれども。

それから、避難所である学校もそうです。備蓄倉庫が3階や何かにあるんですよ。1階にしてもらわないと困るんですが、3階ですから、訓練のときに、持ち上げたりおろしたりするのが大変だからやりたくないというのが出てくるわけですよ。これじゃ、何もならないですよ、置いてあったって。新品のまま置いてあって、訓練に使わないんですから。

【委員】

防災の問題について話を聞いてみて、これは別の部署と関係あると言ったら、その別の部署を次のときに来ていただく。最初からあれもこれも全部と言ったら、防災だけでも大変なことになると思いますけれど。

【部会長】

だから、行政の内部の評価が一応あるわけですから、これをやっぱり読み込んで、全部ゼロからやるわけではないので、この内部評価はちょっと問題あると、そういうことを突いて、それが何でできないかということにやっぱり絞らないと。何か本当にだらだら時間を費やすと、これ来年、もう何十時間、これ全部やれなんていうことはできないということになるので、要領よくやる方法を考えないと、と思うんですけれどね。

【委員】

そうですね。我々は外部評価ですから、要は、行政当局がやった評価の仕方を監視すればいいんですよ。

【部会長】

ええ、だから、区民の視点から見るとこれはおかしいよということ、シャープにギュッと指摘することのほうが、むしろ我々が地道に勉強することはとても重要なんだけど、そのときに勉強しようというのじゃ、やっぱりだめなんであって、ある程度勉強しておいてぐっとやったほうがよいかと。

【委員】

切り込めないよね。何のためにやっているかわからないですよ。

【委員】

防災については、ざっとこの評価を見たところ、どこがいけないかというのは、まず勉強しなきゃいけないわけですけど、自分の関連したところについては、これ指標の取り方がちょっとおかしいんじゃないかということははっきり言えます。

【委員】

大体課題は、指標の設定の仕方とかいうところが一番の課題になると思うんですよ。

【委員】

そうは言っているけど、中に入っているいろいろやってみると、平成7年の阪神・淡路のときから比べると、うーんと十何年でよくなってきていますから、それだけは評価してあげたいと思いますけどね。

ただ、それだけじゃ、まだ足りないから。まだまだまだ不都合なことはいっぱいあるか

ら、そこら辺をやっぱり突いて、いわゆるなるべく皆さんの要望にこたえるようにしてもらいたいと。

【部会長】

さて、どうでしょうか。とりあえずその番号でいうと4つ出ているわけですね。22、23は関連があるということで、一緒にヒアリングすることは不可能ではないと。

【委員】

それと、36と一緒に、その2時間の間でできると思いますけれども、防災については1回で終わるかどうかとか。

【部会長】

ヒアリングの時間を増やしますか。

【委員】

ヒアリングの仕方によりますね。防災の関係ですと、これ2つの施策にまたがっているわけでしょう、今のところは。そうしますと、それを構成する計画事業とかいうのを見ますと、かなりの数になりますよね。そうなりますと、出てこられる課長さんだって結構な数になってくるから。

【部会長】

あらかじめこっちが聞きたいことを全部質問立てして送っちゃえば時間短縮になるかもね、そういうのも可能ね。まあ、こっちが大変なんだよね。

【委員】

まとめるのが大変で。

【部会長】

いつやるんだという話になるとね、どうするか。

【事務局】

例えばそういう方法でしたら、今この場というのが難しければ、期限を決めていただいて事務局のほうに寄せていただいて、事務局から皆さんに流すというのはできますね。

【部会長】

そうしてみますか。そのときに悩んじゃ、時間がどんどんかかるから。

【委員】

私たちのテーマがまちづくり、環境、みどり、安全安心でしょう。だから、安全安心に関することについては防災関連で、それがだから防災は何が防災かという、重点項目の11番も防災だし、あとは施策の22番も防災だし、23番も防災ということなんですね。重点項目の11番というのはこの22、23の中に含まれていますから、重点項目はもう省略して言えば22、23をひっくるめて防災関連、これが安全安心に関するテーマで、これ1つもう決めちゃって、あと環境についてはごみの問題、渡辺さんのこれはライフワークですから、これはもうぜひ取り上げてこれで1つ。

みどり、安全、みどりに関しては、もう施策としてあまりまとまって大きい施策をして

いるわけじゃないんですよ。お義理に施策が挙がっているだけなんです。だから、ここを読んだ限りではつまらなくて、もう読み飛ばしちゃう部分なんですけど、でも大事だよと、この部会でね。大事だよとすれば、みどり、水辺だとかみどりだとかその辺のことをひとつテーマとして。

【部会長】

軽くやる。

【委員】

はい。あと、まちづくりという分野は、これもいっぱいいろんな視点でばらけちゃうんですけど、例えば人に優しい道路、交通施策について、施策25番というのは、これはまちづくりの関係ですよ。僕は、これは生活道路の改善だとか言っている話ですから、これをまちづくり、あと美化で、清潔で美しいまちづくりとか、施策29番でポイ捨てだとかそういう町の安全にやっているとかまとめてあるんですが、そういうのによってまちづくりは25番の人に優しい道路、交通施策を中心にまちづくり関係を幅広くということで、この4つの分野から1つずつ最低限度。

【部会長】

もっと増やすんですか。

【委員】

いろいろ出すという考え方はどうですか。

【委員】

ヒートアイランドの問題があるから、みどりはやっぱり捨てがたいと言うわけでしょう。

【委員】

そうそう。やはりここはもっと補強すべきだという視点で。そう意味でいうと、やっぱり4分野1つずつがいいんじゃないかと思うんですね。

【委員】

時間の制限がありますよね。それで、重点的なものと、あと簡単にと言ったらあれですが、組み合わせで大体与えられた時間内で、もしそれが、時間が余ったらほかの分野にも手を出すということで、最初は3つの枠出しのあたりで一応ヒアリングを考えてみたらどうでしょうか。

【委員】

みどり、ヒートアイランドは重要ですよ。どうしてもそんなに広げるなと言うんだったら、それはひっくるめてまちづくりの中でみるとかね。

【部会長】

まちづくりという言葉はもうみんな、何でも入っちゃうからね。みどりもまちづくりだし、防災もまちづくりだから、ちょっと1つの分野という感じでもないんだよね。

【委員】

ここで取り上げるべきだなと思ったのは道路ですから、道路とか清掃とかね。

【委員】

清掃と言えば関係がありますよね。

【委員】

この清潔で美しいまちづくりって、各所の清掃のことが主だから。

【部会長】

道路というのも本当に多様な見方があるので、交通として見たり、美しいという視点で見たり、防災という視点で見たりすることができるので、別に縦割りでやらなくても、常に道路という視点で、いろんなところで発言していただいて。ヒートアイランドもそうだよ、舗装という側面もあるから。それは幾らでもできると思うので、あえて清潔で美しいまちづくりを項目で挙げて道路をやらなくたって、僕はできると思うんですけどね。

【委員】

何かこれを見ると、随分重複していることがいっぱいある。

【部会長】

そうですね。事業ってそういうものなんですよ。だけど、やっぱり最初のお題目というのも重要だから。

ポイントは2時間のヒアリングでいい、とりあえずやろうということなのか、あるいはもう最初からこれは無理だからもうちょっと延ばせという意見が、今2つ出ているんだけど。

【委員】

今の話では、1パート20分。

【部会長】

でも、22、23は一緒にいいんじゃないかと。

【委員】

2時間を3つに分けると、約40分ですか。

【委員】

それで、この防災関係は2項目にまたがるわけでしょう。その説明を聞くだけでも大変ですよ、時間がかかりますよね。

【委員】

説明のほうもそんなに簡単には終わらないですよ。

【委員】

ええ、なぜこういう評価をしたのかというところを聞かないと、我々としてはいけませんからね。とてもじゃないですけど、本当に大変だと思いますね、2時間で仕上げるのは。

【委員】

じゃ、1本ぐらいしか絞れないじゃないですか。

【部会長】

だから事務局から出ているのは、1ないし2という案ですから、我々が今、3あるいは

4 みたいな感じでやるのは、きついことはきついですが、でも、広く浅くというご指摘もあるし、いや、もっと深くというご指摘もあって、どうでしょうか。

【委員】

まず新宿区政にとって非常にまだ足りないなとか、これからもっとやらなければいけないというようなテーマに、ある程度絞り込んでいく必要があるのかなと。練習のこともありますね。

【部会長】

そうなんです。そうすると、防災と資源に2つに絞っちゃうというのもあるね、さっきのみどり、水もあるけど。

【委員】

あるいは、防災というのが大きなテーマなので、じっくり取り組むためにこちら準備をしておいて、最初にみどりとごみの問題ですか、ヒートアイランドとごみの問題を1時間でやって、ヒアリングというのはこういうふうにすればいいというのをこちらが学習した上で、防災について本格的にヒアリングしていくというのはどうでしょう。

【部会長】

同じ日じゃなくて。

【委員】

ええ、違うんです、だから2回ということですよ。

【部会長】

例えば11月7日の午前が予定ですよ。じゃ、午後もやっちゃおうとかいうのは。

【事務局】

今、予定をそこまで入れていないので、ヒアリング対象の管理職のスケジュールが空いているかどうかというのはちょっと難しいですね。

【委員】

そうだよな、こっちだけの都合じゃできないんだ。

【事務局】

きついところですが、全然アクションを起こせないという状況ではないです。ただ、あとはまとめの時間と申しますか、広く浅くで、とにかく項目をいろいろ聞いて、いろんな管理職とやってみて、その感触をつかんで来年のステップにするという考え方ももちろんあるでしょうし、1つ、2つを重点的に掘り下げてやって、掘り下げる練習をしておくという視点もあるかもしれませんし、どちらの発想もあると思います。こうじゃなきゃいけないというものはもちろんなくて、事務局としては、どうなさりたいかを伺って、対応を考えたいと思いますが。

【委員】

広く浅く全体をやる時というのものもある程度必要だと思うんですけど、広く浅くでは見えてこない部分というのがありますね。

【委員】

でも、今それを言ってもちょっと無理なんじゃないですか、こっちだってまだ全然2回か3回しか会っていないし、この内容だってそんなに掘り下げて検討しているわけじゃないから、今回のヒアリングで100%とろうなんていうのは、ちょっと無理な話で、ほんのさわりしかできないと思いますけれど。

【部会長】

ちょっと戻って、評価の視点というのは4つありますよね。適切な目標があるかとか、サービスの担い手だとか、やっぱり1つ1つの事業を全部こういう4つの切り口で見ると、結構その後、ヒアリングの後、我々がまた議論してやる、結構大変だと思うんですよ。テーマが異なると全然また議論が発散しちゃうし、じゃ、任せましようと言ったって、なかなかそういうわけにもいかないから、やっぱり5人で議論をするということを考えると、あまり増やせないですよ。

【委員】

まあ、2回ぐらいに分けてやってみる手はあるんじゃないかと思いますけど。テーマを2つぐらいに絞って、1つのテーマは2時間ぐらいにして。1時間ぐらいヒアリング時間、あと、質疑の時間もあるでしょうし。

【事務局】

進め方について他の部会の状況を聞きますので、少しヒアリング内容について進めていただくのがよいかと。

【部会長】

じゃ、ちょっと今、保留にしておきましょう。

防災はとにかく今やろうという方向なので、中身を見て、こういうことを聞きたいんだということをピックアップしてみますか。101ページから104ページの4ページで、一応目安として評価の視点の4つをにらみながら、言ってみてください。

この辺ごらんになって、これが内部評価でおかしいよというようなところはありますか。何か目標設定がおかしいとか、おかしいというのは変な言い方だけど、効果的・効率的な視点が全然ないじゃないかというご指摘はありますか、感じるという点が。

【委員】

「防災都市づくり」というこの施策は、102ページにあるように細かい事業というか、年間均一でトータルして5億5,000万ぐらいで、一番多いのが「都市防災機能の向上」という事業なんですね。この中では「百人町三・四丁目地区の整備推進」と「百人町三・四丁目地区の道路・公園整備」は金額はわずかなんですよ。ただ、あそこの町というのは非常に身近に見ているんですが、道路用地と整備用地とで町の2割ぐらいが空き地になっているんです。ほとんど空き地になってきて、それでそのある部分はポケットパークにしたり。

【部会長】

これを選ぶとしたら、例えば今この4つの視点で行政評価はちょっとまずいと、区民の評価になったらこの辺ちょっと欠けているぞという、そんなご指摘がどこにあるかなと思って聞いているんですけれど。

【委員】

百人町三・四丁目地区の整備促進計画というものがよくわかりませんので、どういう計画なんですかということをもまず聞きたい。その中に区画街路という言葉があって、何かまた道をつくるという計画があるというふうに言われているので、家をどかして道をつくらって、一体どういうことなんだというような意味で聞きたい。そんな必要があるんですかという意味で聞きたいという、質問事項としてそういうのを挙げたいと思っております。

【部会長】

百人町にターゲットを絞って何か指摘したいということですか。それは、むしろ目標設定のことかな。

【委員】

あと、「都市防災機能の向上」というのは、若葉・須賀町地区の共同建替え事業の支援なんです。細街路の地区はいっぱいあるわけですよ、新宿区内に。例えば、話がまとまったところからそういうふうにやりましょう、ということなんですけど、区が、それをまとめるために関与するのは必然性があるんだけど、資金支援みたいな形があるんです。それがどの程度、どういう名目で支援されているかというのは、僕らはわかりません。わかりませんが、ここでも2億円とか3億円とかいうような金額の予算のうち、そういう何にどういう名目で支援をしているんですかということは、きちっと区民として知りたい。

この関連で幅広く言うと、今ここでは防災という言葉で再開発なんですけど、例えば西新宿のほうなんていうのは、また別な意味での区の再開発。共通しているのは、再開発に行政が積極的に関与して、そして積極的に支援をする。支援というのは、手伝うというだけじゃなくて税金の投入もあるらしいということなんですよね。それがどういう理屈でどのぐらいの支援があるのかということは、1つはそこに住んでいる方々に、こういう支援があるから、だから建て替えなさいという部分と、区民全体の税金をそこに投入するわけですから、そういうお金を使うという情報が開示されていく必要があるというのが、私の考え方なんです。

だから、そういう意味で、この「都市防災づくり」というの施策のお金の大半は、再開発事業に対する予算なんです。再開発事業に税金をどういう理由でどのくらいお金をかけているんですかということ、僕ら区民は広く知る権利があるんじゃないですかという意味で知りたい。妥当かどうかというような判断は今僕らにはできませんけど、どういうお金がどういった理由で、地区に補助されているのか。

【部会長】

例えば今のことをこっこの評価の4つの視点で言いかえると、再開発事業というのはいろんなところで行われているけども、それが効果的・効率的に税を、費用対効果ですね。

あるいは、人、組織を有効に活用しているかという視点が特に重要ではないかという、ご指摘ですか。

【委員】

妥当かどうかという判断は、今はまだ判断能力がありませんから、そんなに払うべきじゃないとかというのは、何らかの根拠がなきゃ言えませんが、僕は自分がそういう知識を持っているわけじゃないし。ただ、どういうふうに使われているかということの情報を、最初に知りたい。

【委員】

どういうところにどの程度の資金が流れるか、それは何のために使っているのかということを知りたいわけですね。だから、個人的なものには使わないで、いわゆる公共的なものに使っていると思うんですよ、道路の拡張とかそういうものに。

個人には、あくまでも個人はだめだということになっていますから、それも聞いてみるのも大事なことから、聞いてみてごらんになったらいいと思います。

【部会長】

そのときって、この百人町三・四丁目地区にやっぱり絞りますか、どこかものを選ばないと、向こうだって一般論で出てきても困るわけでしょう。

【委員】

ですから、これは事務事業として「都市防災機能の向上」ということで2億9,700万円の予算でというのが、あるんです。それについて、このお金はどういう支援をしているんですかというのを今は聞いているんです。

それとは別に、ここには7つばかりの事務事業がありますから、その中の2つが百人町三・四丁目地区に関係がありますから、一緒の質問として出しておきたい。

【委員】

確か百人町三・四丁目地区は19年度で終わりになるはずですよ。最後のポケットパークの整備、あと、道路の問題は残っていますが、それはちょっと買収がまだ全然終わっていないから、まだ先の話になるでしょう。

あそこがなぜそういうことになったかということ、要するに三丁目が広域避難場所に初めになっていたんです。ところが、木造家屋がたくさんあるところで危険であるからということで、それから外れることになります。その周りの例えばタワーホームズから社会保険庁、病院から公務員宿舎から消防、それから戸山都営団地、都営団地をどんどん新しく建て替えましたので、周りは災害に強いまちづくりになりましたが、その周りが広域避難場所になっておりまして、その一番真ん中にある百人町三丁目の町会が、広域避難場所から外れちゃうことになったんです。本当はそこの中も一緒に広域避難場所にならなきゃいけないんですけど、7割燃えない建物ができれば、そこも一緒に広域避難場所の指定になるわけなんですけど、まだ今そこまでいっていないんですね。

ですから、もうちょっとだと思えますけれども、そういういきさつがあるんです。道路

がもう1本できることになっているのは、要するに避難道路ですね。けれど、避難道路というのは、外から入ってくる避難道路なんですよ。例えば百人町二丁目とか落合地区とかからあそこに避難してくる人が来ることになっているんですよ、発災した場合には。

【委員】

議論はなかなかできませんから、質問だけまずしたいというふうに言っているんですけども、それと同じように補助72号線というの、随分お金を使っている事業なんですけれども、途中で終わって、用地買収に随分お金を使っているんですね。すぐそのところの道をずっと来るという計画でだいぶ買収されて、もうあと何軒も残っていない。

【委員】

そうなんです。だから、早くしてくれというの、地区会議では要望しているんですよ。

【委員】

一方ではね、早くしろと言っているけれど、あれは何のためにあんなところを、また家をどかして道路つくるのかという話も一方ではあるみたいで。

【委員】

でも、途中からとまっているから早くやってくれというのが多いんですよ。

【委員】

私はああいう都市計画道路というものに大変疑念を持つ1人だから、何でこんなところにこんなお金使って道路つくるのというふうに思うんだけど。

【部会長】

まあ、でも補助72号線が個人的に興味があるのは、私も個人的には興味があるけれど、でもそれはこの大きな枠組みの中でやっぱりちょっと考えていただかなきゃいけないことなので、ここに事務事業として拳がっていないことにあまり時間を費やしてもしょうがないと思うんですね。広く浅くという視点が広過ぎて、逆に行政評価とこちらの評価の差が出てこないというふうになってしまっただけは、元も子もないわけですから。

【委員】

そうですね、説明責任を果たしていただくという目的もありますから、それはそれでよろしいのかもしれませんが、せっかく外部評価委員会という形で活動するわけですから、何らかの前向きな提言ができないといけないとは思うんですよ。

そうした観点からしますと、この「防災都市づくり」で言いますと、目的のところでは建築物の不燃化とか耐震化の促進とか、こういった広場とか整備とかいうことで、都市防災機能の向上ということを目的に掲げていますよね。例えば18年度の事業によって、そういった目的がどの程度達成されたのかというようなことは、やはり1つの指標としてこの成果指標というのを見る必要があると思うんです。そうしますと、この成果指標を見ますと3つしか上がっていないですよ。それも建築物工事中間検査受検率とか重点地区し定数、これは安全推進地域活動重点地区とかいうことになっていますし、それから比較的関連しそうなのは、この予備耐震診断の実施件数というようなことが挙げられているんです

けれど、本当にこういう指標で見るのがいいのかどうか。ほかはないのかというようなことが言えようかと思うんです。ちょっとあまりにもマイナーな指標なんじゃないかとか、なかなかその指標の立て方が難しいからこういう形に落ちついたのかもしれませんがね。数字で達しなれば、定性的な目標を書くとか、いろんなやり方があるんだろうと思うんです。

ですから、私はこのページについては、そういう成果指標の立て方が適切なんですかという言い方をしたいですね。

【部会長】

例えば「道路や広場の整備等により」と書いてあるけれど、そのことに関する指標はないですね。先ほどのご指摘にあったように、ハードは非常にお金がかかる。それはそれで必要だけれども、それが本当にこういう成果として効果があるものなのか納得いかないと、道路にしても公園にしても。そういう視点で、やっぱり防災という視点は失ってはいけないので、防災の立場から道路づくりや広場づくりのことを、お金との関係で費用対効果も見ようということで、その中でやっていただいたら、今の成果指標に結びつくと思うんですけれどね。

【委員】

施策22番と23番が防災という言葉を使っているんですけども、中身を見ると、1つは先ほど言いましたように若葉・須賀町地区のいわゆる共同建替えといった再開発のことです。あとは、23番のほうに入っているんですが、「避難所等の震災対策」といって、学校等の防災、いわゆる耐震工事、その費用が22億とかそのくらいのお金を使っている。ほかはあまり大きなお金を使っていないんです。

そういう目で見て、住宅に対する耐震補強の補助みたいなものは、どうなっているのか。

【委員】

なるほど、こっちはあまり進んでいないんだ。

【委員】

だから、そういうところをやっぱりやるべきじゃないかと。

【部会長】

PRしているのに全然来ないんですよというの、別の機会に聞いたことがあります。だから、それなんかはちゃんと指摘する重要なところの視点です。

【委員】

防災というのは、すべて不燃物に建て替えなきゃなんないわけじゃなくて、今の木造でも倒れないようにするみたいなことが非常に大事だというようなことなんですよね。だけど、これは、向こうから来ないからこれだけある。

【部会長】

だから、PRが悪いのか何が悪いのかちょっと聞き出したほうがいい。

じゃ、ちょっと待ってください。「防災都市づくり」をやるのに、成果指標がこの程度で

きちっとできるのかということと、特に「建築物等耐震化支援事業」などは全く進捗していないじゃないかという、この辺を強く聞きますか。

今言っていたことで、また後で何かお気づきの点があれば、さっき言った質問項目の整理を事務局に指摘していただくということで。

では、さっき出た4つの候補を見てみましょう。他の部会の状況はどうですか。

【事務局】

他の部会は、一応2時間で何とか今回はおさめるつもりがあるということが1点あります。

それと、対象ですが、第2部会はマックスで3つ、2つないし3つで、大体3つの方向が強そうです。第3部会は3つぐらいと言っていて、3つの候補が、「地域ぐるみの防災都市づくり」、第1部会とかぶっているのが1つで、防災でこちらのほうで安全・安心でなされるんらというので、向こうはほかのを選ぼうかというふうになりつつあります。

あとは、商店街の関係ですとか、ポイ捨て、先ほどの「清潔で美しいまちづくり」は含むかなとおっしゃっていました。そこはまだ調整はしていませんけれども。状況としてはそんなところですよ。

事務局の副参事の考えでは、ヒアリングの時間について事務局が要検討で断るものではないので、調整する必要がありますということですよ。

【部会長】

もう1つ、向こうでポイ捨てというのは、さっきの資源の話ではないの。

【委員】

違うんです、美化のほうですよ。

【部会長】

じゃ、こっちは資源でやっても別にダブらない、重ならない。

【事務局】

そこは重ならないですよ。今、候補には挙がっていないようです。

【委員】

じゃ、ちょっと時間のことは置いて、「地域ぐるみの防災体制づくり」について、4つの評価の視点を一応念頭に置いて、どの辺が問題だというふうに思われますか。ここで何を一番聞こうと、このD評価のところかな、そうでもないんだけど。

【委員】

D評価というと「多目的環境防災広場の確保」ですね。

【部会長】

Dというのは、素直に評価しているといえばそうなのかもしれないけど。

【委員】

これはちょっと何を防災広場と言っているのかがわからない。

【事務局】

多目的環境防災広場は、今あるところでは北新宿ですとか、大体 100 m²ぐらいのちょっとした広場です。それが平成 8 年度以降は全然できていませんというので、見直しましょうというものです。

【委員】

広場の中に、消防団や区民組織の詰所や資機材倉庫を設置すると書いていますね。

【部会長】

これは結構問題あるんじゃない。ここにだって、リサイクルの拠点を併設するんだって、だから環境と入っている。これは重なる事業だ。こういうそもそも目標の設定がよろしいのか、計画目標の設定がよろしいのかということと、こんなにうまくいかないんだったら、極端に言えばやる必要ないんじゃないのということなのか、あるいはさっきおっしゃった区立の公園が 200 数十カ所あるわけですね。そこに設置できないから、これやろうとしているんじゃないの。そういうことは聞く価値があるよね。

【委員】

公園には、こういう防災倉庫を設置できないというような話を聞いたんですけど、それはどうなんですか。

【事務局】

そういうのもぜひ聞いていただいたほうがいいかと。

【部会長】

あるいは、もっと民地をお借りするなんていう話だって現実的にはあるんじゃないの、お金少し払ってでも、という議論をするとどう。

【委員】

ちょっと今の多目的環境防災広場の確保というのは、問題があるのかなと思うんだけど。ポケットパークの 1 つに消防団のポンプを入れる小屋を区でつくったんですよ。上が消防団の会合ができる部屋になっていて、下に消防ポンプが 1 台入っている。その裏側にほんの狭い、今言った環境支援の倉庫になっている。それをそういう名前で言っているにしちゃ、ちょっとあまりにもこれ貧弱過ぎるし、そういうことを指しているのかなあ。

【部会長】

成果指標のところを見ますと、多目的環境防災広場の確保、6カ所設置とある。

【委員】

6カ所設置。防災ボランティアの育成 56名登録、これは何を指しているんだろう。

【部会長】

この辺をちょっと指摘しますか。目標設定が効率的なのか、何で達成できないのか、あるいはそういう事業としてよろしいのかという。これは結構大きいかもしれないですね。

次は、「みどりと水の豊かなまちづくり」、これはどの辺がちょっとご覧になって問題でしたか。気のついたことだけおっしゃってください。

【委員】

みどりについては、例えば池の水の助成とか、それから樹木、巨木の保護だとか、それから公共施設の緑化だとか。それから、道については、遮熱透水性舗装というんですか、温度を上げないような舗装を広げていく。そういう努力はしているということはわかるんです。

それと、今、道とみどりの課のほうで屋上緑化の助成制度を検討中ということなんですが、緑化だけに限ると植物のことだけになってしまいますよね。そうじゃなくて、例えば高反射塗料というのがあるんですが、太陽光を反射して温度を上げないようにする、そういうものも対象にすれば、ヒートアイランド対策としてよりアップするんじゃないか。

それから、ドライミストというんですか、霧みたいなのを吹き出す、そういう設備を大型の建物に設置するように条例化するとか、やり方は幾らでもあると思うんです。

だから、その助成にしても、もし予算がなければ、そういう塗装業者さんを区があっせんすることによって一、二割安く設置できる、塗れるようにするとかいろんな方法があると思うんですが、そういうのもっと具体的に幅広く、みどりだけじゃなくてやってほしいというふうに、ヒートアイランド対策をもっと拡大したいという視点で。

【部会長】

ヒートアイランドの問題、CO₂の問題が今世界的に出ているので、そういう視点に立って今の施策、事業がきちっと行われているかという、そういう目標・目的の設定自体も少し変えたほうがいいのではないかと。そうすると、全部変わってくるわけですから、そんな意識ですかね。

【委員】

110ページの総合評価のところを見ますと、その一番最後の4行目のところなんですが、新宿区の緑被率というんですか。これ12年度と比べると実質的に減少しているということがありますので、やはりこれも緑被率を高めていく必要があるんでしょうね。そうしたときに、現在の施策で十分なのかどうか。今おっしゃったこととも関連しますが、そういう視点で見る必要があるんじゃないかと思います。

あと、それとの関連で、指標の立て方ですね。なぜその緑被率というのを持ってこないのかとかですね。

【委員】

緑被率そのものは23区の中で決して低いほうじゃないんですね。新宿区は、7つの都市の森になっていて、それをみどりの回廊でつないで風のみちをつくらうという、そういう構想があるんですが、それがまだ出てきていない。

【部会長】

緑被率というのは、大きな緑があればドーンとなっちゃうので。その配置がふさわしいかどうかという視点も要るんですけどね。

ちょっと時間が押してきているので、資源のところではどんな指摘ができそうですか。

【委員】

環境学習のほうはこのとおり、評価のとおりでよくやっていると思います。小・中学校については、環境意識がかなり高まっています。大人以上に高まっています。

資源化率ですが、資源化率もそこに書いてあるとおりで20%という、問題は集団回収参加率ということなんですけれども、参加率50何%というのは、これは集団回収団体が対象とする世帯数を用紙に書くんです。それを集計したものだと思うんです。実際に参加しているのはその半分ぐらいです。そういうあやふやな数字を指標として持ってくるというのはおかしいと思う。

【部会長】

じゃ、データがちょっと問題だということですか。そりゃ、重要だな、捨て切れないな。これはつらい質問になりそうな。

ほかに何かお気づきの点は。

【委員】

例えば町会で700世帯あったら、実は700世帯協力していないのに700世帯載っちゃうわけですか。

【委員】

はい、そうです。

【委員】

ああ、それはいけない。ちょっと知らなかったな。

【委員】

何年か前に、ごみの直営回収と委託回収のあれも含めて。

【部会長】

この辺はサービスとしてどうかというのは重要だよな。

【委員】

サービスの担い手というところでも、今、直営の収集からだんだんと民間委託に移しているところで、そのほうがコストも安くなるし、それからきめ細かなサービスもできるということがあるんですけども、業者さんへの支援ですね。事業費というふうにまとめて書いてあるので、収集運搬にどれくらいかかっているのか、それから助成がどのくらいかということがわからないんですけど。その助成というのは、一時、資源の価格が暴落したときに業者さんが廃業するようなはめに陥ったので、それを当時は支援するという意味でつけてきています。ところが、今はその資源の価格が非常に上がってしまって、それなのに同じ助成をしていくのがどうなのなのか、そのやり方をやっぱり見直すべき。

【部会長】

それは鋭いですね、鋭いご指摘で、これはやっぱりやらないわけにはいかないですね。わかりました。

一応、じゃ、4つやりましょう、さっきの4つ。あと、時間についてはちょっとやれるだけやって。2時間やってみて、ご指摘のように効率よくやるだけけれど、どうしてもだ

めだったら、この部会だけまた別にその課長さんをお願いしてやるということも、ちょっと念頭に置くということで。今からもう1日増やそうというより、そのとき考えよう。僕もちょっと頭の片隅に入れて事務局と相談しますから。

ただ、皆さんの仕事が増えますから、それはいいんですか、それを前提にして、大丈夫ですか。

では、今日の部会は終わりにして、全体会に戻りましょう。

<閉会>